



田村市立都路中学校

学校だより 第22号

平成30年 3月27日(火)
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：・夢や志をもつ生徒 ・自ら学び考える生徒 ・心身ともに健康な生徒
めざす学校像：・夢や志を育む学校 ・学び合い、高め合う学校 ・信頼され、愛される学校

平成29年度修了式

23日(金)、平成29年度修了式を行いました。1・2年生41名は、先日の卒業式において、心のこもった準備をしてくださいました。また、3年生が卒業した後は、生徒会活動や部活動などにおいて、一層のリーダーシップを発揮しています。4月からは新入生と共に、新たな都路中のストーリーを描いてほしいと期待しています。修了式では、校長式辞として、以下のメッセージを1・2年生に贈りました。



今年度、本校では、「夢や志をもつ生徒」「自ら学び考える生徒」「心身共に健康な生徒」を育てることを目標に、保護者や地域の皆さん、企業や関係の皆さんの協力を得ながら、様々なことにチャレンジしてきました。3つの目標について振り返ってみると、①将来の夢を持っている生徒は多いが、自分の志として、他者にプレゼンできる生徒は少ない。②与えられた課題を反復ドリル的に学習できる生徒は多い。しかし、自ら課題を見つけ、「調べ、考え、書く」といった活用型の学習をしている生徒は少ない。③健康的な生活を送っている生徒は多いが、自分で学習や生活を改善する力は十分に身に付いていない、と言えると思います。4月から始まる平成30年度は、「自分の志を他者にプレゼンできる生徒」「自ら課題を見つけ、『調べ、考え、書く』といった活用型の学習ができる生徒」「自分で学習や生活を改善する力、即ち自己マネジメント力を身に付けた生徒」を育てたいと考えています。皆さんも、そのような力を身に付けられるように努力してください。

オックスフォード大学の研究チームは、AI(人工知能)の導入によって、10年~20年後になくなる仕事を、【1電話販売員、2不動産登記の審査・調査、3手縫いの仕立て屋、4コンピューターを使ったデータの収集・加工・分析、5保険業者、6時計修理工、7貨物取扱人、8税務申告代行者、9フィルム写真の現像技術者、10銀行の新規口座開設担当者、11図書館司書の補助員、12データ入力作業員、13時計の組立・調整工、14保険金請求・保険契約代行者、15証券会社の一般事務員、16受注係、17(住宅・教育・自動車ローンなどの)融資担当者、18自動車保険鑑定人、19スポーツの審判員、20銀行の窓口係、21金属・木材・ゴムのエンボス・彫刻業者、22包装機・充填機のパネラー、23調達係(購入アシスタント)、24荷物の発送・受け取り係、25金属・プラスチック加工用フライス盤・平削り盤のパネラー】と予測しています。それぞれの仕事には共通性がないように見えますが、仕事がマニュアル化しやすい、つまり決められたルールに従って作業すればよいという点で共通点があり、AIによって代替されやすいと判断されたようです。ここには25位までしかありませんが、オックスフォード大学の研究チームは、現在ある職業の約半数が消滅し、働く人々の47%が、少なくとも今の仕事を失ってしまう危機にさらされると予測しています。10年後~20年後、私たちの日常で、大変なことが起ころうとしています。

次に、AIが導入されても、10年~20年後も残る仕事が、【1レクリエーション療法士、2整備・設置・修理の第一線監督者、3危機管理責任者、4メンタルヘルス・薬物関連ソーシャルワーカー、5聴覚訓練士、6作業療法士、7歯科

矯正士・義歯技工士、8 医療ソーシャルワーカー、9 口腔外科医、10 消防・防災の第一線監督者、11 栄養士、12 宿泊施設の支配人、13 振付師、14 セールズエンジニア、15 内科医・外科医、16 教育コーディネーター、17 心理学者、18 警察・刑事の第一線監督者、19 歯科医、20 小学校教師(特別支援教育を除く)、21 医学者(疫学者を除く)、22 小中学校の教育管理者、23 足病医、24 臨床心理士・カウンセラー・スクールカウンセラー、25 メンタルヘルスカウンセラー】です。自分にできそうな仕事があるかどうかよりも、社会全体にとって重要なのは、AIに今の仕事を奪われた人の大半が、このリストにあるような仕事に、あるいはAIにはできないけれども、人間にはできる新たな仕事に転職できるかどうかです。それができないと、多くの人が仕事を失い、社会は大混乱です。AIが導入されても、10年～20年後も残る仕事の共通点は、人間らしいコミュニケーション能力、柔軟な思考力・判断力・表現力などが求められることです。AIの弱点は、何万という情報をインプットされてようやく一を学ぶこと、応用が利かないこと、柔軟性がないこと、決められた枠組みの中でしか計算処理ができないことなどです。したがって、AIとは反対の、一を聞いて十を知る能力、柔軟な思考力・判断力・表現力、決まった枠組みにとらわれない発想力などを持っているれば、AIを恐れる必要はありません。

しかし、私たちは、AIには肩代わりできない仕事をうまくやっていけるだけの資質・能力を十分に備えているでしょうか。AIが持っていない、人間らしいコミュニケーション能力、柔軟な思考力・判断力・表現力、決まった枠組みにとらわれない発想力などを、大人になっても身に付けることができなければ、AIに仕事を奪われるか、誰にでもできる低い賃金の仕事に就くか、失業するかのいずれかです。そのような人が社会に溢れる危機的な事態は、何としても避けなければいけません。

今まで私は機会を捉えて、皆さんに3つのC、即ち「Chance」をつかみ、「Challenge」することから逃げず、自分を「Change」できる経験をたくさんしてほしいことを繰り返し伝えてきました。その理由の一端は、上に述べたようなことにあります。社会の変化が複雑で予測困難なこれからの時代は、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の姿勢では、生きていくのが難しい時代となるでしょう。しかし、そのような時代がやってくるからこそ、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生を、人間ならではの感性を働かせて、より豊かなものにしていける。また、現在では思いもつかない新しい未来の姿を描き、それを実現していくことが大切です。



自分なりの課題を見つけ、「調べ、考え、書く」ためには、勉強して「偏差値」を上げることも必要です。しかし、AIの発達によって、変化が複雑で予測困難な未来を生き抜いていく皆さんには、「偏差値」などの決まった尺度や枠組みにとらわれ過ぎず、人間らしいコミュニケーション能力、柔軟な思考力・判断力・表現力、そして創造力などを生かして、例えば、多くの人が、生活の中で不便に感じていることや困っていることを探し、どうやったらその困ったことを解決できるのかを考え、できない理由を探すのではなく、とにかくやってみることが必要です。ぜひ、そのようなことができる人に成長してください。

皆さんが、タフな頭、タフな心、そして「何になりたいかより、どう生きたいか。」という高い志を育むために、自分の殻を破れるような学び、そしてチャレンジを続けることを大いに期待して、式辞といたします。



<参考図書> 『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』(新井紀子著、東洋経済新報社、2018年)